専修大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	専修大学			設置者名	学校法人専修大学			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（平成21年度）			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数 実数	免許状取得者数 個別	教員就職者数
経済学部一部	経済学科	480人	中一種免（社会）	昭和29年度	510人	10人	5人	0人
			高一種免（地理歴史）	平成 2年度			8人	
			高一種免（公民）	平成 2年度			6人	
			高一種免（商業）	昭和29年度			0人	
	国際経済学科	200人	中一種免（社会）	平成 9年度	220人	11人	8人	0人
			高一種免（地理歴史）	平成 9年度			7人	
			高一種免（公民）	平成 9年度			10人	
			高一種免（商業）	平成 9年度			1人	
経済学部二部	経済学科	100人	中一種免（社会）	昭和29年度	103人	5人	1人	0人
			高一種免（地理歴史）	平成 2年度			0人	
			高一種免（公民）	平成 2年度			4人	
			高一種免（商業）	昭和29年度			0人	
法学部一部	法律学科	550人	中一種免（社会）	昭和29年度	614人	14人	7人	0人
			高一種免（地理歴史）	平成 2年度			8人	
			高一種免（公民）	平成 2年度			12人	
	政治学科	150人	中一種免（社会）	平成18年度	117人	8人	4人	1人
			高一種免（地理歴史）	平成18年度			5人	
			高一種免（公民）	平成18年度			6人	
法学部二部	法律学科	150人	中一種免（社会）	昭和29年度	146人	3人	2人	0人
			高一種免（地理歴史）	平成 2年度			2人	
			高一種免（公民）	平成 2年度			3人	
経営学部	経営学科	530人	中一種免（社会）	平成19年度	590人	7人	0人	1人
			高一種免（公民）	平成19年度			0人	
			高一種免（情報）	平成13年度			3人	
			高一種免（商業）	昭和38年度			5人	
商学部一部	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ学科	440人	中一種免（社会）	昭和40年度	458人	20人	5人	0人
			高一種免（地理歴史）	平成 2年度			7人	
			高一種免（公民）	平成 2年度			9人	
			高一種免（情報）	平成14年度			3人	
			高一種免（商業）	昭和40年度			10人	
	会計学科	220人	高一種免（商業）	昭和44年度	214人	3人	3人	1人
商学部二部	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ学科	100人	中一種免（社会）	昭和40年度	95人	3人	1人	1人
			高一種免（地理歴史）	平成 2年度			2人	
			高一種免（公民）	平成 2年度			1人	
			高一種免（商業）	昭和40年度			1人	
文学部	日本語学科	70人	中一種免（国語）	平成22年度				
			高一種免（国語）	平成22年度				
	日本文学文化学科	110人	中一種免（国語）	平成22年度				
			高一種免（国語）	平成22年度				
			高一種免（書道）	平成22年度				
	英語英米文学科	140人	中一種免（英語）	昭和42年度	151人	21人	14人	8人
			高一種免（英語）	昭和42年度			21人	
	哲学科	70人	中一種免（社会）	平成22年度				
			高一種免（地理歴史）	平成22年度				
			高一種免（公民）	平成22年度				

	歴史学科	130人	中一種免（社会）	平成22年度				
			高一種免（地理歴史）	平成22年度				
			高一種免（公民）	平成22年度				
	環境地理学科	50人	中一種免（社会）	平成22年度				
			高一種免（地理歴史）	平成22年度				
			高一種免（公民）	平成22年度				
	人文・ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾞﾑ学科	90人	中一種免（社会）	平成22年度				
			高一種免（地理歴史）	平成22年度				
			高一種免（公民）	平成22年度				
ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部	ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学科	230人	中一種免（数学）	平成14年度	222人	14人	1人	1人
			高一種免（数学）	平成14年度			2人	
			高一種免（情報）	平成13年度			12人	
人間科学部	心理学科	70人	中一種免（社会）	平成22年度				
			高一種免（公民）	平成22年度				
	社会学科	120人	中一種免（社会）	平成22年度				
			高一種免（地理歴史）	平成22年度				
			高一種免（公民）	平成22年度				
入学定員合計		4,000人	合計		3,440人	119人	199人	13人

大学名	専修大学（大学院）	設置者名	学校法人専修大学

学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（平成21年度）			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数 実数	免許状取得者数 個別	教員就職者数
経済学研究科	経済学専攻	30人	中専免（社会）	平成 2年度	23人	0人	0人	0人
			高専免（公民）	昭和31年度			0人	
法学研究科	法学専攻	25人	中専免（社会）	平成16年度	10人	0人	0人	0人
			高専免（公民）	平成16年度			0人	
文学研究科	日本語日本文学専攻	10人	中専免（国語）	平成 2年度	10人	4人	4人	1人
			高専免（国語）	昭和46年度			4人	
	英語英米文学専攻	5人	中専免（英語）	平成 2年度	1人	1人	1人	1人
			高専免（英語）	昭和46年度			1人	
	哲学専攻	5人	中専免（社会）	平成 2年度	2人	0人	0人	0人
			高専免（公民）	昭和46年度			0人	
	歴史学専攻	10人	中専免（社会）	平成 4年度	8人	1人	1人	0人
			高専免（地理歴史）	平成 4年度			1人	
	地理学専攻	5人	中専免（社会）	平成 4年度	1人	0人	0人	0人
			高専免（地理歴史）	平成 4年度			0人	
	社会学専攻	5人	中専免（社会）	平成 4年度	4人	0人	0人	0人
			高専免（公民）	平成 4年度			0人	
	心理学専攻	10人	高専免（公民）	平成 4年度	13人	0人	0人	0人
経営学研究科	経営学専攻	20人	高専免（情報）	平成13年度	15人	1人	1人	1人
			高専免（商業）	昭和50年度			0人	
商学研究科	商学専攻	10人	高専免（商業）	昭和50年度	28人	1人	1人	1人
	会計学専攻	15人	高専免（商業）	平成22年度				
入学定員合計		150人	合計		115人	8人	14人	4人

備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成22年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。

実地視察大学に対する講評

実 地 視 察 日：平成２２年１１月２５日（木）
実地視察大学：専修大学
実地視察委員：岸田正幸委員、高岡信也委員

■　大学の教員養成に対する全般的な状況

＜状況＞
・一部７学部１７学科、二部３学部３学科及び５研究科１２専攻で、教員養成を行っている。

＜講評＞
・教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており良好に実施されている。

■　教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

＜状況＞
・「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」という人材養成の目的に基づく教員養成を行っている。

＜講評＞
・教員養成に対する理念・構想は示されているが、それを明確化・具体化するため、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるよう体制を整えること。
・単位を修得させるだけではなく、教員として教壇に立てる資質を身につけさせたかを大学の責任において判断してほしい。

■　教育課程（教職に関する科目等）、教員組織、履修方法及びシラバスの状況

＜講評＞
・同一名称の科目については、教員によって大幅に内容が異なるのは望ましくないため、教員間で調整する等して同じ内容に近づけること。(必要事項を含み、基準を満たした上で特色を出すのは構わない。)
・多数の授業科目について、各科目に含めることが必要な事項を含んでいないため、再考の上、修正すること。
・評価方法について、出席のみを持ってプラスの評価をすることは望ましくないため改めること。
・シラバスについて、学生に授業内容をきちんと周知することが出来るよう各回、詳細に記載すること。

■　教育実習の取組状況

＜状況＞
・原則、自己確保で約９割が出身校で実習を行っている。

＜講評＞
・平成１８年７月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」を参照の上、大学の責任において実習校を確保し、大学の教員と実習校の教員が連携して指導に当たる機会を積極的に取り入れること。また、実習校により評価にばらつきが生じないよう留意すること。

■　学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

＜状況＞
・高大連携協定校による教科研修生の実施や、付属高等学校における授業見学に参加している。
・神奈川県教育委員会や川崎市と連携し、スクールライフサポーターや様々なボランティアに学生ボランティアを派遣している。

＜講評＞
・大学が積極的に推奨し、多くの学生が現場体験活動に参加していることは評価出来る。体験した活動を教職課程にどのようにフィードバックし活かしていくかを再考の上、より充実したものにしてほしい。

■　教職指導及びその指導体制の状況

＜講評＞
・基準を厳しく設けるのであれば、一度教職を志した学生のモチベーションを持続できるよう、全学的なサポート体制をより充実させてほしい。
・教職科目の開設については、学科の専門科目の開設時間帯との編成を整理するなど意欲ある学生の履修を困難にしている状況を改善すること。

■　教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

＜状況＞
・教職課程協議会が教職全般に責任を持ち、学内外との連絡調整も行っている。

＜講評＞
・事務と教員（特に教科専門の教員がどのように携わって行くか）の連携を密にし、教職課程に対する全学的な組織をより充実したものにしてほしい。

■　施設・設備（図書等を含む。）の状況

＜講評＞
・施設・設備は非常に充実している。
・図書について、最新の学習指導要領、教科書並びに教職関連雑誌等を充実させ、学生が利用しやすいよう配置を工夫すること。